

## 羽石寛寿先生に心からの感謝を

摂南大学経営学部教授・前経営学部長の羽石寛寿先生は2016年3月にご退職の予定である。ここに謹んで先生への感謝の気持ちを率直に述べたいと思う。

羽石先生は、1968年3月に大阪工業大学工学部工業経営工学科をご卒業になり、1970年に同大学院工学研究科修士課程工業経営学専攻を修了、直ちに近畿大学理工学部経営工学科助手に就任された。同学部助手を5年間務められたのち、大阪工業大学と同じ常翔学園に属する摂南大学の新設に際して工学部経営工学科講師として迎えられ、その後、経営学部(当時は経営情報学部)に移られたとはいえ、以後40年の長きに渡って、摂南大学一筋に教育・研究に持ち前の真摯な姿勢で全力で取り組んで来られた。その間、学生部長、教務部長、地域連携センター長などの要職も歴任され、経営学部長を勇退されたのはほんの1年前の2015年3月のことである。

先生と面識を得、経営学部の同僚・後輩として身近に接することができた期間はさほど長いものではない。その意味で生意気とのそしりは免れないが、「人間が本当に好きで、人を心から愛する」という表現が、先生のお人柄にピッタリ当てはまるように感じられる。先生のこのご気質が「人間問題への行動科学的アプローチ」という研究テーマと結びつけば、もはや教育研究者として鬼に金棒である。このようなご気質から自然に生み出される「人を魅了してやまない無私の笑顔」もまた先生のお人柄を端的に物語る。この笑顔が、先生の指導を仰ぎたい、先生とあれやこれや議論したい、先生から直面する問題解決の示唆を得たいと、多くの学生、多くの教育研究者、多くのビジネス・パーソンが先生のもとに集うよき契機となった。その結果、先生を核に自然な形で強固な信頼関係に裏付けられた人的ネットワークが形成されていった。先生は、このネットワークをバネに、教育面、研究面、大学運営面、社会活動面で、余人にはまねのできない、また目立つというよりも着実に中身のある実績を積み重ねて来られたのである。

先生の多方面でのご活躍・ご貢献のあらまきは、先生ご自身の手による(控えめな)「教員生活45年を振り返って」をご覧いただければと思うが、立場上、あえて指摘しておきたいのは、先生がインターンシップ、キャリアデザイン、PBLといった「キャリア教育」・「実践教育」に社会の潮流に先駆けていち早く取り組まれ、経営学部はもとより摂南大学全体に根付かせて頂いたことである。「キャリア教育」・「実践教育」の重要性に、先生がもし当時気づかれていなかったら…と心臓が縮む思いである。

先生は2016年3月をもって摂南大学経営学部を去られる。とはいえ、先生の気力・体力に何らの衰えもない。勿論、これまでと同じというわけにはいかないが、先生にはまだまだ陰に陽に経営学部の価値向上のためにお力添えを頂かなければならない。「先生への感謝」は、実際のところ「先生へのお願い」が本音である。

経営学部長 高尾 裕二

